平成２８年　３月　４日

平成２７年度活動報告書（1/1）

学部・委員会名	東京農業大学「食と農」の博物館
学部長・委員長等氏名	博物館長　上原万里子
担当所管	博物館事務室
テーマ	農大の「今までを」「今を」「これからを」発信する

１．目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

「食と農」の博物館は「東京農業大学」を世界に向けて発信していくことが使命である。開館から 10 年が経過して 11 年目に入る平成 27 年度は、新しい段階を目指していく。

東京農業大学の教育研究の世界を、博物館を通して世界に発信する。先ず始めに『ふたつの教育研究の世界』展として学術情報課程と応用生物科学部 5 学科の紹介展示を行う。以後、東京農業大学の教育研究の世界の紹介をシリーズ化していく予定である。

次に、今まで学内からの企画を中心として展示を行ってきたが、学際的な広がりを求めて学外の研究団体との連携による展示活動も実施する。平成 27 年度後期には奥州市の「NPO 法人女わざ」の監修・指導をうけて「女わざと自然とのかかわり」－農を支えた北東北の布たち－展を計画している。以後、様々な分野の視点から「食と農」を構成出来るような展示活動を展開していく。

２．実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

下記の展示を行う。

① 企画展『ふたつの教育研究の世界』展／2015.4.1(水)～2015.8.3(月)
　≪1≫学術情報課程－その教材と研究資料－（企画展示室 A）
　≪2≫応用生物科学部 5 学科合同展－伝統技術から最先端のバイオテクノロジーまで－(企画展示室 B)

② 特別展「女わざと自然とのかかわり」－農を支えた東北の布たち－／2015.10.14(水)～2016.3.13(日)（企画展示室 A・B）

昨年度同様、展示活動や資料蒐集・保管・管理といった博物館が本来必要とする業務経費に予算を充て、尽力する。「食と農」の博物館も各方面で認知されてきており(昨年は国立台湾大学の招請により副館長がセミナーに参加)、来館者もより高次元の内容を求めるようになってきた。各学科 1 名の教員(助教以上)で構成されている博物館運営委員にも、更に積極的にかかわってもらうことで高度な活動を維持・展開したい。

収蔵資料のデータ化を行い、一括管理を徹底したい。また、馬事公苑や世田谷区などとの事業協力も引き続き行っていく。

３．達成度を判断するための指標

１．来館者数（大学付属の博物館は全国的に多々存在するが、当博物館ほど来館者を集められるところは非常に少なく、また、メディアに取り上げられることも多い。）
２．HP のアクセスカウント数
３．企画展示等のイベントの収容人数に対する参加人数および参加者の感想
４．資料整理状況の記録

４．成果・評価

■成果

１．来館者数については添付資料「資料１．平成 27 年度 入館者数ｸﾞﾗﾌ」を参照
２．当博物館を取上てくれたメディア等については添付資料「資料２．平成 27 年度 取材申込・掲載紙」を参照
３．イベントについてのアンケート回答については添付資料「資料３～資料１２」を参照
４．HP のアクセスカウント数は平成 28 年 3 月 4 日現在 338,429 名
５．所蔵資料のデータ化も順調に進んでいる
　所蔵資料については、古農機具・標本台帳の全文をデータ化。管理維持・出納のためにデータベースを作成。
　また、貴重資料を展示しつつ見せる試みとしてリン鉱石用の資料棚を展示室内に設置した。

■評価（5～1 で記載してください）

5　方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度がきわめて高い

５．課題及び改善事項

博物館自体の展示やイベントなどを中心とした教育普及活動については、今の現況・レベルを維持し続けていくことで確たる評価に繋がるとみている。バックヤードなど施設設備の欠如や人員の不足などは、博物館単体では如何ともしがたいところであり、その限られた状況の中で確かな成果を出しているといえる。

６．平成 28 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。